

始として義光方に成りていり多天童より横山備後守  
佐後左馬の千葉源八郎和田太郎吉富沢右京松浦  
外記誹谷頼母小山源助大森又内結城八郎渡邊  
近内八郎七郎大林七内葉原角助戸崎孝八小我  
おとととと故く戦ふ中にも和田太郎吉外南相模守の首を  
打取深入して終登守の家来有路花人に出合故く又戦ひ  
和田運命やつきなり是少く是之蹈遠ひをあらくといふ事  
を有路とあらん首をととれまゝ里見源右史郎等に奥  
山惣助と名乗て切て出る所へ味方より戸那孝助が合  
切結ふ所へ奥山何ふ事とて之馬上の堀に片足踏込  
立止んとせし所へ孝助進きて組我首を取んとす所へ  
奥山は持て太刀をはきしに之隙に有路のかりた如くは  
来り上取る孝助の首水もたぬに打落さ草薙兵庫是  
を見て有路をもちを引ちといふより早く有路を唯下打り打  
ちく此首をもち拾ふ所へ打取て猶も草薙の首をに之振下  
指北に指し侍来一旦の欲はぬけり只今遁れ悦  
ても昔も今も道を失ふ天命首を廻るる面あり  
と大言の勢を呼よりて中侍にて引返る愛に日理能  
登守に大力世よとれ古今無敵の者成れども忽ち心  
變り義光に随ひ味方此者共敵の首を我ひと出さる